

(様式第1号)

平成30年3月6日

認定介護福祉士認証・認定機構

理事長 大島 伸一 様

領 域 名： 心理・社会的支援に関する領域

科 目 名： 心理的支援の知識・技術

単 位 数： 2単位

認証申請する研修の名称：認定介護福祉士養成研修

団体名：一般社団法人三重県介護福祉士会

団体事務所の所在地：〒514-0003


三重県津市桜橋2-131 三重県社会福祉会館2階

電話：059-264-7741

FAX：059-264-7742

E-mail：mie_kaifuku@ybb.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者：(一社) 三重県介護福祉士会 

申請責任者：大田 京子

記

○認定介護福祉士研修認証申請書（別紙1～3）

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	平成30年3月6日
申請団体名	一般社団法人 三重県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 大田 京子
申請責任者職名	三重県介護福祉士会 研修担当
申請責任者氏名	森 聖志
団体住所	〒514-0003 三重県津市桜橋 2-131
同 Tel・Fax	Tel：(059)-(264)-(7741)
メールアドレス	Fax：(059)-(264)-(7742) E-mail:mie_kaifuku@ybb.ne.jp
申請対象の領域	領域名：心理・社会的支援に関する領域
科目名(単位数)	科目名：心理的支援の知識・技術(2単位)
申請する研修名	
研修認証実績	年 認証番号()
	年 認証番号()
	年 認証番号()
その他特記事項	

別紙 2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	心理・社会的支援に関する領域	
科目名	心理的支援の知識・技術	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 援助者が自己覚知し、援助対象者の心理を理解・支援するうえで必要な心理学に関する知識を習得し、心理的理解と支援の方法を習得させる。 	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間の心理と行動に関する理論を理解し、説明できる。 ・ 自己と他者の心理を理解するために自己覚知し、その上で基本姿勢と生じやすいバイアスを理解する。 ・ 学習と欲求・動機づけの理論を理解し、支援に応用できる。 ・ 心理的理解や支援の基本的技法を知り、実践に取り入れる。 	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> ○心理学の基本的理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ ところを科学的に研究する事理解 ○自己と他者の心理的理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己概念の理解（社会的アイデンティティ、社会的比較など） ・ 社会的認知（他者理解のバイアス：ステレオタイプ、帰属錯誤など） ○学習と動機づけの理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の基本原則と応用（行動理論の理解と自立支援への応用） ・ 欲求と適応の理解（マズローの欲求階層説、防衛機能など） ・ 動機づけの理解と応用（達成動機、内発的動機 	<ul style="list-style-type: none"> ○心理学の基本と心理的理解（3時間）（講義） <ul style="list-style-type: none"> ・ ところを科学的に研究する事についての必要性理解をする。 ○自己と他者の心理的理解（4時間）（講義と演習） <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己分析し自己理解をする。（交流分析により） ・ 自己理解したことをグループで個々の違いについて共有・発表し自己理解を深め、自己概念を知る。 ・ 社会的認知（他者理解について、バイアス、ステレオタイプ、原因帰属）について理解する。 ・ 自己と他者の心理的理解について、各自まとめ、提出する。（1時間）（A4 1枚 800字程度） ○学習と動機づけの理解（4時間）（講義と演習） <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習と動機づけ、適応、防衛機制、達成動機、内発的動機付けの基本原則を理解する。マズローの欲求階層説の理解をする。

<p>など)</p> <p>○心理的支援技法の基礎と実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理学的面接技法の理解と応用(カウンセリング等における関わりや傾聴の技法の理解と練習など) ・ストレスと対処方略の理解 ・生活支援への認知行動療法等の応用 <p>・筆記試験 (50問、100点満点60点以上が合格)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行動理論(行動的アプローチにより自立支援をする事)について、グループワークする。 <p>○心理的支援技法の基礎と実践(3時間)(講義と演習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理学的面接技法の理解をする。(傾聴技法等) ・カウンセリング等における関わりや傾聴の技法をグループで演習する。 <p>・ストレスと対処方略の理解(3時間)(講義と演習) ストレス理論の理解と、ストレスコーピングについて理解する。</p> <p>ストレスチェックをする。 セルフケア、ラインケアの演習をする。</p> <p>精神障害に対する支援(統合失調症・気分障害など)について理解する。(2時間)(講義)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援への認知行動療法等の応用(4時間)(講義) 認知症の人とのコミュニケーション技法(ユマニチュード、バリデーション等)の関する概要を理解する。 <p>認知行動療法の基本と応用的アプローチを理解する。 グループで、認知行動療法的アプローチの演習をする。</p> <p>・筆記試験(2時間) (50問、100点満点60点以上が合格)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事後課題(4時間) ・認知行動療法的アプローチを自職場で実践し、レポート(A4 1200字程度)にまとめる。
<p>研修方法</p>	<p>■集合研修</p>

	<p>■課題学習</p> <p>○集合研修講義と課題学習を組み合わせで行う。</p> <p>○課題学習は、</p>
研修時間	30 時間（集合研修 15 時間、課題学習 15 時間）
修了要件	<p>○全課程出席を要する。やむ得ない事情「公共交通機関等の影響、冠婚葬祭等」による遅刻、早退については10分を上限として認める。集合研修に関しては、10分を超える遅刻、早退の場合、別途課されるレポート課題により代替することを可能とする。</p> <p>○筆記試験は50問程度とし、A～C評価（100点満点中60点以上）を合格とする。D評価（59点以下）の場合は、再試験を行い、A～C評価になったものが「疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ」が受講できる。やむ得ない事情による遅刻、早退については30分を上限として認める。やむ得ない事情による欠席があった場合には別途試験日を設定する。再試験は複数回の受験を可能とする。</p> <p>○欠席の場合は修了を認めない。</p>
講師要件（講師の選定基準）	<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験があること ・心理学に関する教育や心理的支援を行っている者が望ましい
(2)受講者について	
受講対象（受講要件）	・特になし
修了評価	<p>修了評価は以下により行う。</p> <p>①出席状況が修了要件を満たしていること。</p> <p>②筆記試験（50問程度9により行う。100点～80点をA評価、79点～70点をB評価、69点～60点をC評価とする。A～C（100点満点中60点以上）を修了とする。</p>
(3)研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	40名
開催場所（都道府県）	三重県社会福祉会館（三重県津市桜橋 2-131）

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等（届出事項）

(1)研修の実施予定	
実施日	① 平成 30 年 4 月 26 日
	② 平成 30 年 5 月 17 日
	③ 平成 30 年 5 月 31 日
開催場所（会場）	① 三重県社会福祉会館（三重県津市）

	②
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	<p>○認知症のある人への生活支援（2単位） 千草 篤磨氏 高田短期大学幼児教育学科教授、高田短期大学人間介護福祉学科 学科長 （略歴） 立命館大学大学院文学研究科心理学専攻修士課程修了 京都・吉祥院病院小児科発達相談員、特別養護老人ホーム報徳園生活相談員 （学位） 文学修士 （保有資格） 認定心理士、臨床心理士、臨床発達心理士 （主な研究業績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心理科学への招待」（共著）有斐閣 2004年 ・「仏教社会福祉支点」（共著）法蔵館 2006年 ・シリーズ臨床発達心理学第5巻『思春期・成人期の社会適応』（共著）ミネルヴァ書房 2011年 ・「自閉症児の子育てにおける諸問題」高田短期大学育児文化研究第4号 2009年 ・「高齢者の回想と未来展望」高田短期大学紀要第29号 2011年 <p>担当する講師 修了評価 千草 篤磨 履歴は同上</p>
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 （担当部局・人員）	認定介護福祉士養成研修実行委員会（常勤：1名、非常勤：6名） 実行委員会事務局（担当事務局員、常勤2名） 研修実行委員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連関や留意点について共有する。またできる限り研修実行委委員会の委員が研修に参加・見学し、研修内容を評価するとともに、随時研修の見直しを図る。
研修の企画運営に関する諸規程	三重県介護福祉士会の定款、生涯研修委員会の諸規程に準ずる。
研修管理責任者職名	会長
研修管理責任者氏名	大田 京子
機構問合先部署	三重県介護福祉士会事務局
機構問合先担当者氏名	森 聖志
機構問合先電話番号/FAX	059-264-7741 / 059-264-7742
機構問合先 e-mail アドレス	mie_kaifuku@ybb.ne.jp
受講問合先部署	三重県介護福祉士会事務局

受講問合せ先担当者氏名	森 聖志
受講問合せ先電話番号/FAX	059-264-7741 / 059-264-7742
受講問合せ先 e-mailアドレス	mie_kaifuku@ybb.ne.jp
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	三重県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	<ul style="list-style-type: none"> ○紙媒体及びデータによる台帳管理 ○データ保存期間は最低10年間とし、その後は、紙媒体で保管する。 ○個人情報の取り扱いにおいては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、全課程を修了したのものには、全課程を修了した証明書を発行する。
管理責任者氏名	大田京子（会長）
管理担当者氏名	長谷川千恵子（担当の事務局員）

別紙 1

認定介護福祉士養成研修標準時間割表

領域：心理・社会的支援に関する領域

科目名：心理的支援の知識・技術

(1日目)平成30年4月26日

区分	科目名	時間	内容
	受付	8:30~9:00	
1	○心理学の基本と心理的理解	9:00~10:30	・ ころを科学的の研究することについての必要性の理解をする。
	休憩	10:30~10:40	
2	○心理学の基本と心理的理解 ○自己と他者の心理的理解	10:40~12:10	・ ころを科学的の研究することについての必要性の理解をする。 ・ 自己分析し自己理解をする (交流分析により)
	休憩	12:10~13:10	
3	○自己と他者の心理的理解	13:10~14:40	・ 自己理解した事をグループで個々の違いについて共有・発表し自己理解を深め、自己概念を知る。
	休憩	14:40~14:50	
4	○自己と他者の心理的理解	14:50~16:30	・ 社会的認知(他者理解について、バイアス、ステレオタイプ、原因帰属)について理解する。 ・ 自己と他者の心理的理解について、各自まとめ、提出する。(A4 1枚 800字程度)

(2日目)平成30年5月17日

区分	科目名	時間	内容
	受付	8:30~9:00	
1	○学習と動機づけの理解	9:00~10:30	・ 学習と動機づけ、適応、防衛機制、達成動機、内発的動機付けの基本原則を理解する。 マズローの欲求階層説の理解をする。
	休憩	10:30~10:40	
2	○学習と動機づけの理解	10:40~12:10	・ 行動理論 8 行動的アプローチにより自立支援をする事) について、グループワークする。
	休憩	12:10~13:10	
3	○心理的支援技法の基礎と	13:10~14:40	・ 心理学的支援技法の理解をする。(傾聴技

	実践		法等) ・カウンセリング等における関わりや傾聴の技法をグループで演習する。
	休憩	14:40~14:50	
4	○心理的支援技法の基礎と実践	14:50~17:00	・ストレスと対処方略の理解 ストレス理論の理解と、ストレスコーピングについて理解する。

(3日目) 平成30年5月31日

区分	科目名	時間	内容
	受付	8:30~9:00	
1	○心理的支援技法の基礎と実践	9:00~10:30	・ストレスと対処方略の理解 ストレス理論の理解と、ストレスコーピングについて理解する。(2日目の続き) ストレスチェックをする。 セルフケア、ラインケアの演習をする。 精神障害に対する支援(統合失調症・気分障害など)について理解する。
	休憩	10:30~10:40	
2	○心理的支援技法の基礎と実践	10:40~12:10	・生活支援への認知行動療法等の応用 認知症の人とのコミュニケーション技法(ユマニチュード、バリデーション等)に関する概要を理解する。
	休憩	12:10~13:10	
3	○心理的支援技法の基礎と実践	13:10~14:40	・生活支援への認知行動療法等の応用 認知症行動療法の基本と応用的アプローチを理解する。 グループで、認知行動療法的アプローチの演習をする。
	休憩	14:40~14:50	
4	○心理的支援技法の基礎と実践 ・筆記試験	14:50~17:00	・まとめ ・筆記試験

別紙 1

認定介護福祉士養成研修時間割表

領域：心理・社会的支援に関する領域

科目名：心理的支援の知識・技術

(1日目) 平成30年4月30日

区分	科目名	時間	内容
	受付	8:30～9:00	
1・2	<p>○心理学の基本的理解 ・こころを科学的に研究する事の理解</p> <p>○自己と他者の心理的理解 ・自己概念の理解(社会的アイデンティティ、社会的比較など)</p> <p>・社会的認知(他者理解のバイアス：ステレオタイプ、帰属錯誤など)</p>	<p>9:00～12:40 途中10分休憩</p>	<p>(講義) ○心理学の基本と心理的理解 ・こころを科学的に研究する事についての必要性理解をする。</p> <p>(講義と演習) ○自己と他者の心理的理解 ・自己分析し自己理解をする。 (Y-G性格検査により) ・自己理解したことをグループで個々の違いについて共有・発表し自己理解を深め、自己概念を知る。 ・社会的認知(他者理解について、バイアス、ステレオタイプ、帰属錯誤)について理解する。</p>
	休憩	12:40～13:40	
3・4	<p>○自己と他者の心理的理解 ・自己概念の理解(社会的アイデンティティ、社会的比較など)</p> <p>・社会的認知(他者理解のバイアス：ステレオタイプ、帰属錯誤など)</p>	<p>13:40～18:50 途中10分休憩 (2回)</p>	<p>(講義と演習) ○自己と他者の心理的理解 ・自己分析し自己理解をする。 (Y-G性格検査により) ・自己理解したことをグループで個々の違いについて共有・発表し自己理解を深め、自己概念を知る。 ・社会的認知(他者理解について、バイアス、ステレオタイプ、帰属錯誤)について理解する。 レポート提出</p>

(2日目) 平成30年5月20日

区分	科目名	時間	内容
	受付	9:00~9:30	
1・2	○学習と動機づけの理解 ・学習の基本原理と応用(行動理論の理解と自立支援への応用) ・欲求と適応の理解(マズローの欲求階層説、防衛機能など) ・動機づけの理解と応用(達成動機、内発的動機など)	9:30~12:40 途中10分休憩	(講義と演習) ○学習と動機づけの理解 ・学習と動機づけ、適応、防衛機制、達成動機、内発的動機付けの基本原則を理解する。マズローの欲求階層説の理解をする。・行動理論(行動的アプローチにより自立支援をする事)について、グループワークする
	休憩	12:40~13:40	
3・4	○学習と動機づけの理解 ・学習の基本原理と応用(行動理論の理解と自立支援への応用) ・欲求と適応の理解(マズローの欲求階層説、防衛機能など) ・動機づけの理解と応用(達成動機、内発的動機など) ○心理的支援技法の基礎と実践 ・心理学的面接技法の理解と応用(カウンセリング等における関わりや傾聴の技法の理解と練習など) ・ストレスと対処方略の理解	13:40~16:50 途中10分休憩	(講義と演習) ○学習と動機づけの理解 ・学習と動機づけ、適応、防衛機制、達成動機、内発的動機付けの基本原則を理解する。マズローの欲求階層説の理解をする。・行動理論(行動的アプローチにより自立支援をする事)について、グループワークする (講義と演習) ○心理的支援技法の基礎と実践 ・心理学的面接技法の理解をする。(傾聴技法等) ・カウンセリングの3条件(共感、受容、自己一致)を理解する。 ・カウンセリング等における関わりや傾聴の技法をグループで演習する。 (講義と演習) ・ストレスと対処方略の理解 ストレス理論の理解と、ストレスコーピングについて理解する。

(3日目) 平成30年5月31日

区分	科目名	時間	内容
	受付	9:00～9:30	
1・2	・ストレスと対処法略の理解	9:30～12:40 途中10分休憩	(演習) ・ストレスチェックをする。 セルフケア、ラインケアの演習をする。 (講義) 精神障害に対する支援(統合失調症・気分障害など)について理解する
	休憩	12:40～13:40	
3・4	生活支援への認知行動療法等の応用	13:40～16:50 途中10分休憩	(講義) ・生活支援への認知行動療法等の応用 高齢者に対する回想法の理論と実際について理解する。 認知行動療法の基本と応用的アプローチを理解する。 グループで、認知行動療法的アプローチの演習をする。 <u>・筆記試験</u>